三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル	採択コース
日本と海外の若者の価値観の差と通話アプリ「Telim」の海外進出の可能性を探る	Bコース

学生情報	
氏名	柴田 真志
所属学部・研究科	工学部
学年(出発時)	4年生

渡航先情報	
渡航先	アメリカ合衆国カルフォルニア州
渡航先滞在期間	2023年8月19日 ~ 2023年9月23日
訪問先機関等	Talk English School San Francisco
訪問先機関での身分	学生

渡航概要と内容
<p>私はこの度、世界各国の若者の興味・価値観を理解し、私が開発した通話アプリ「Telim」の海外進出の可能性を探るためにサンフランシスコへの渡航を決意しました。</p> <p>私は「友達と共に時間を過ごす価値をもっと最大化できないか」と思い、昨年度1年間上京しスタートアップ業界で活動してきました。そこで私は、「ふと暇な時間に友達を誘うことをためらってしまう」という課題を解決すべくアプリ「Telim(β版)」を開発しました。</p> <p>現在のSNS業界では、ターゲットをいくつかの国に絞ったSNSはユーザー数の頭打ちなどの問題もあり広告があまりつかず継続していくのが難しいのが現状です。そのため今回「Telim」の海外進出の可能性を探るために、世界中のスタートアップが集まる街でもあるサンフランシスコへの渡航を決意しました。サンフランシスコでチャレンジしたことは主に2つです。1つ目は、サンフランシスコやシリコンバレーで活躍している起業家や投資家に「Telim」について壁打ちをすることで世界規模でのアプリ開発の解像度をあげました。2つ目は、世界各国から学生が集まっているサンフランシスコで、世界中の学生の興味や価値観について調査を行いました。</p> <p>私は今回サンフランシスコへ5週間滞在することで、Telimの海外進出の可能性について日本からでは知り得なかった知見を得ることができました。</p>

渡航により達成できたこと
<p>この度の渡航により2つのことを達成しました。</p> <p>1つ目はアンケート調査による定量的な調査です。世界各国から若者が集まるサンフランシスコにて、様々な国出身の若者55名にアンケート調査を行うことができました。具体的には、現地の若者に「ふと暇なときに友達を誘うことにためらいを感じるか」と質問し、結果としては68.6%の人が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した。この結果として、海外の若者は、Telimで解決できるような課題をあまり感じていないことがわかりました。</p> <p>2つ目は、アンケート調査に協力していただいた方々に、インタビュー調査を行いました。この調査では、出身国や年齢などの基本情報から、普段どのように友達を誘っているかなど、具体的な友達との関わり方に関する調査できるように意識しました。アンケート調査と出身国を照らし合わせることで、ローコンテクストの文化をもつアジア圏出身の若者は、日本人と同じように友達を誘うときに課題を感じている人が多いことがわかりました。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

私がこの渡航を通して学んだことは、国によって若者の価値観が大きく違うことです。特に、欧米の国々とアジアの国々では大きな差があり、現在Telimの開発により取り組んでいる「ふと暇なときに友達を誘うことをためらってしまう」という課題に関しては、特にこの差が顕著でした。これにはローコンテキストとハイコンテキストの文化の差が大きく関わっているのではないかと感じました。ハイコンテキストの文化を持つアメリカでは思ったことをすべて口に出すのが当たり前であり、友達から誘いを断られたからと言って、その理由を深読みするような心理行動は見られませんでした。それに比べて、ローコンテキストの文化を持つアジアでは、思ったことのすべては口に出さないため、友達に誘いを断られたときに「実は相手は誘われてのが嫌だったのではないか」などを考えてしまい、負担に感じるケースが多いように思われます。このようなことから「ふと暇なときに友達を誘うことをためらってしまう」という課題は、ローコンテキストの文化をもつ国々の若者が感じているのではないかという考察を得ることができました。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

私は今回の体験を通じて、今後のTelimの開発の方向性を考え直し2つの選択肢を持つことができました。

1つ目は、Telimのターゲットを「世界中の若者」から、「ローコンテキストの文化をもつアジア圏の若者」に変えて開発を続けることです。今回の経験より、Telimは欧米の若者が熱狂的なユーザーになる可能性は低いですが、アジア圏の若者は熱狂的なユーザーになる可能性が高いと感じました。今後、この方向で進めていくためには、アジア圏の他の国々に行き、現地の若者の価値観の調査を進めなくてはならないと考えます。

2つ目は、Telimの開発を終了するという事です。サンフランシスコで世界に向けてSNSを開発している起業家に話を聞き、現状日本だけ、または複数国だけをターゲットにしたアプリを開発し続けるのは、資金的に難しいことがわかりました。これは、現状のアプリの開発資金は広告収入に頼る面が大きく、そのためには億単位でのユーザーが必要なためです。

今回の経験を通じて上記2つの方向性が見えてきました。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

私は今回の経験を通じてアプリの開発以外にも様々な体験をすることができました。アメリカだけでなく海外はどこも日本とはまるで違い、日本での常識が一切通じない場所です。そのような場所で、観光ではなく生活をする中で、日本での生活を客観的に見ることができました。帰国してからは、これまで当たり前と感じていたことに有り難みを感じたり、感動できるようになりました。これまでに海外に渡航したことがない方は、是非この機会を使って海外に挑戦することを強くおすすめします。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	380,000円
海外旅行保険	22,000円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	133,513円
宿泊費	325,000円
光熱費	0円
食費	200,000円
その他	200,000円
合計	1,260,513円